

# 第35回料金審査専門会合における 指摘事項への回答

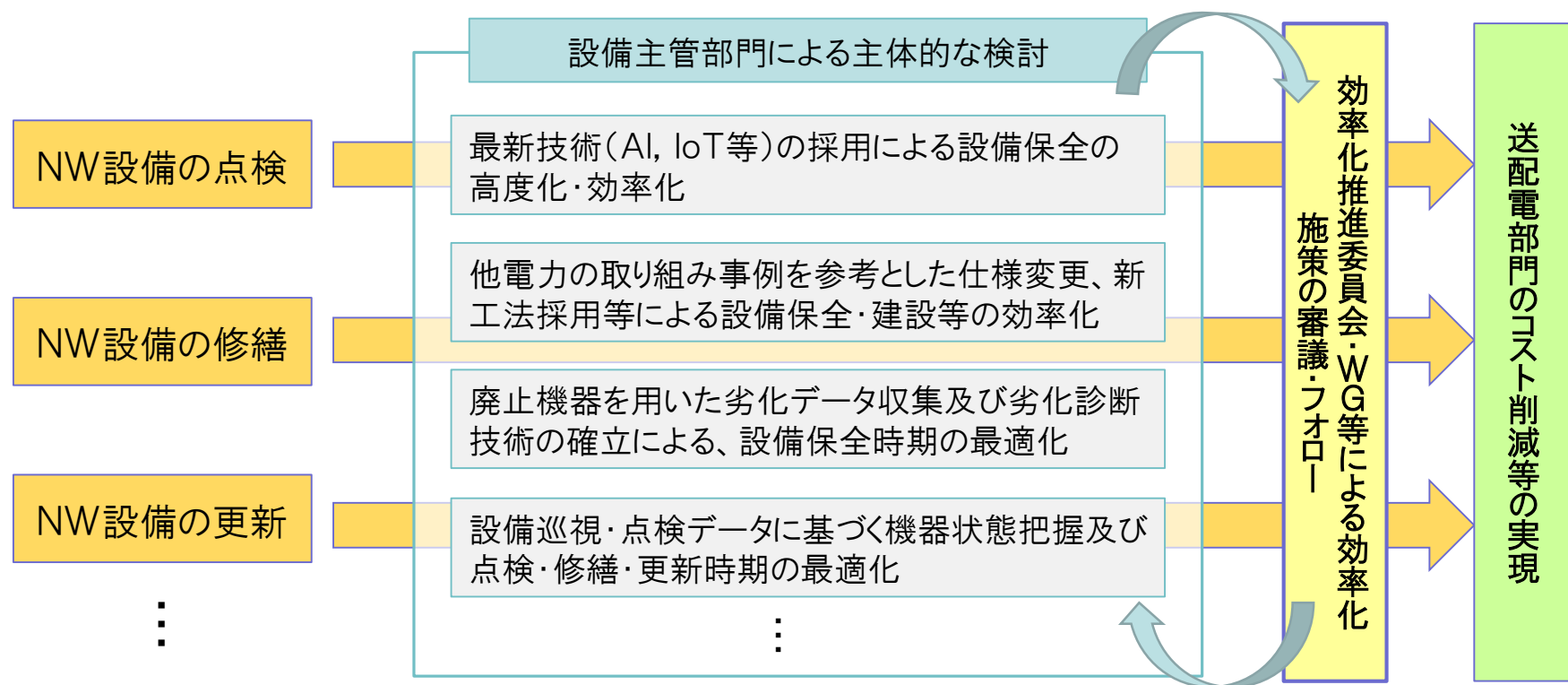
2019年2月18日  
九州電力株式会社

## 目 次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1. 効率化に向けた目標設定 .....                 | P3 |
| 2. 他社の優良事例を自発的に取り入れていくための対応状況等 ..... | P5 |
| 3. ①競争発注比率の目標達成に向けた取組 .....          | P6 |
| 3. ②人件費に係る想定原価と実績費用の差異 .....         | P7 |
| 4. 調達計画の公表方針 .....                   | P8 |

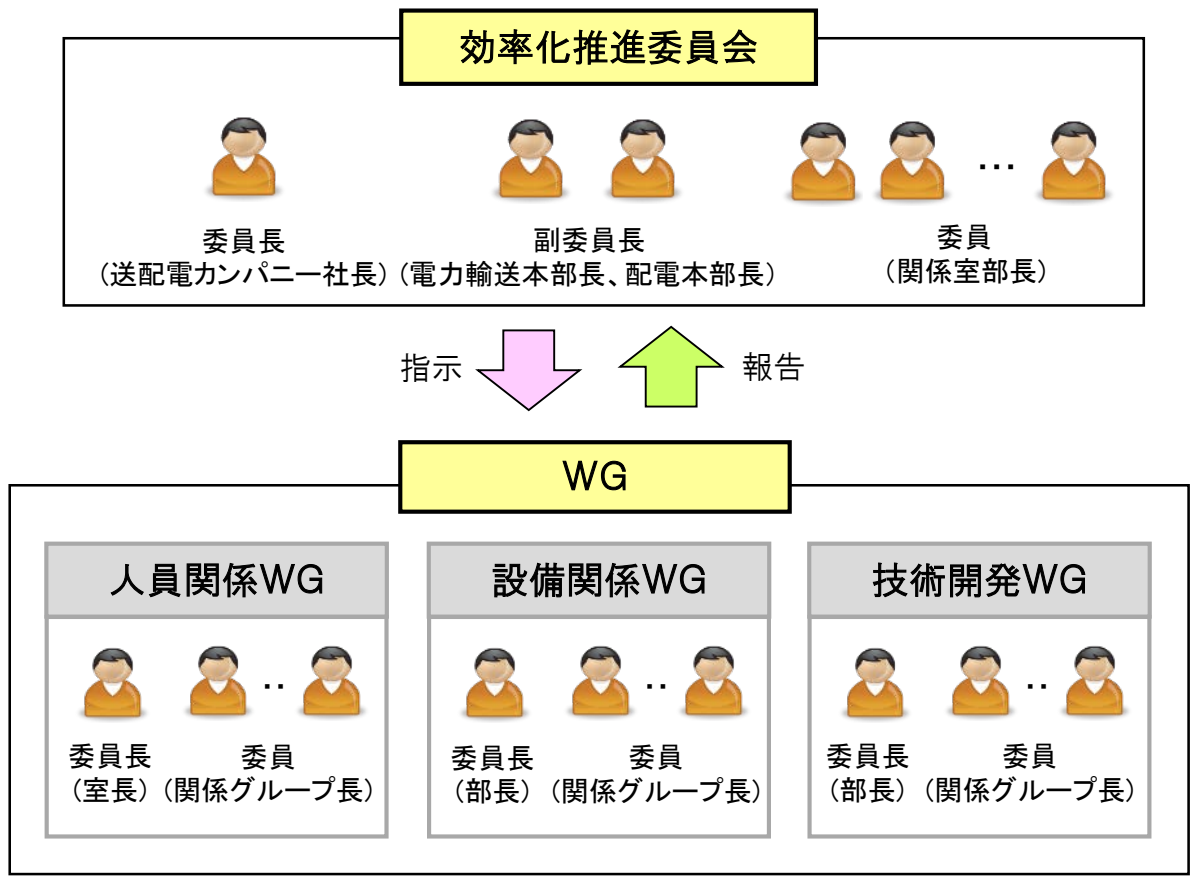
- 当社は、経営環境が大きく変化する中で、電力の安定供給を基本的使命とし、ステークホルダーの皆さまから選ばれる企業を目指して、2013年の料金改定時に計画した「全社の効率化額(1,437億円)」を踏まえて、徹底した効率化に取り組んでいます。
- 今後とも低廉で良質な電気を安定的にお届けするため、需要減少や設備高経年化、再エネ導入拡大等の事業環境を踏まえつつ、2018年7月に設置した効率化推進委員会において、「安定供給の維持」と「安定的な経営」等の観点で、更なる効率化を推進してまいります。

## コスト削減等の管理の仕組み

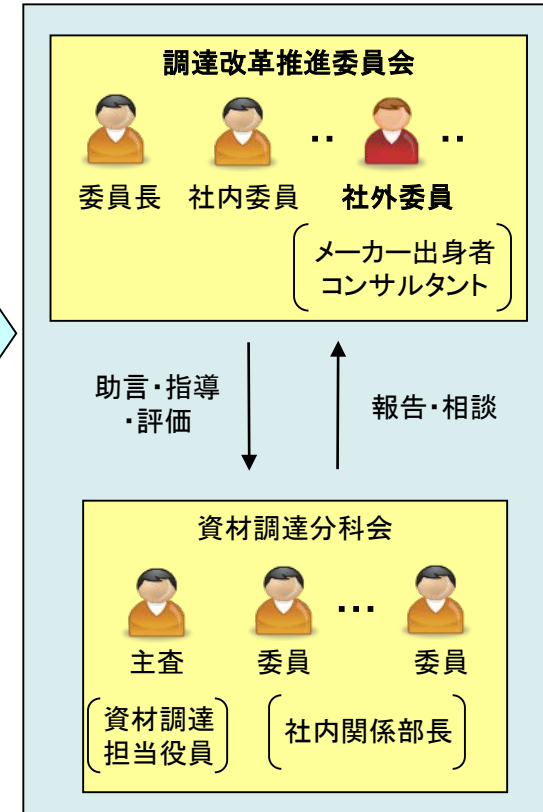


- 当社は、2018年7月に送配電カンパニー社長を委員長とした「**効率化推進委員会**」を設置し、送配電カンパニーにおける更なる効率化の推進に取り組んでいます。
- 効率化推進委員会の下に3つのWGを設置し、人員、設備の効率化や技術の高度化等の検討を進めています。

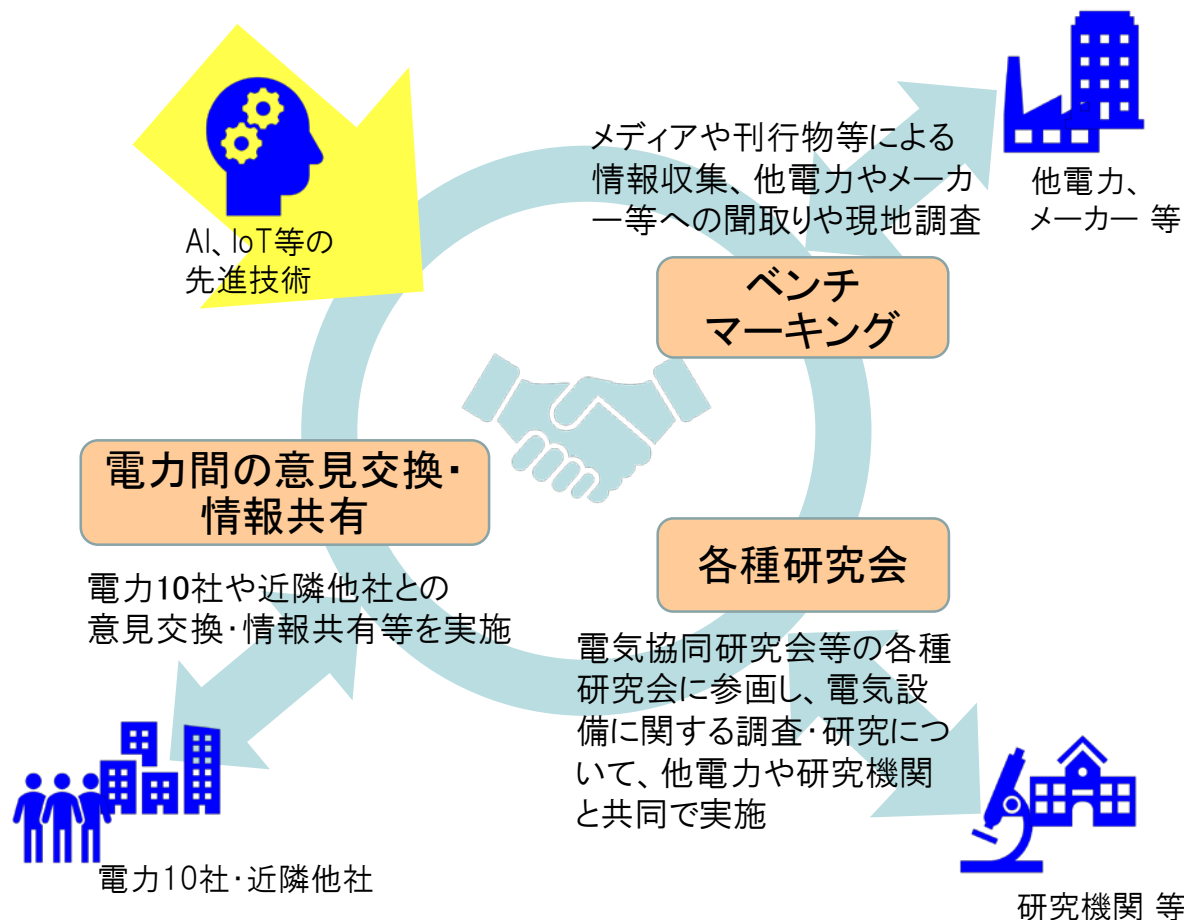
## 送配電カンパニーにおける効率化推進体制



## （資機材調達効率化の推進体制図）



- 当社は従来から、メディアや刊行物等による情報収集や、他電力・メーカー等への聞き取りなどによって、他社の優良事例を含む先進技術の導入に向けた検討を行っています。
- また、電力会社間の意見交換・情報共有や各種研究会等への参画、共同検討等にも取り組んでいます。
- 今後も、これらの機会を活用してAIやIoT等の先進技術を積極的に活用し、更なる効率化・高度化を進めてまいります。

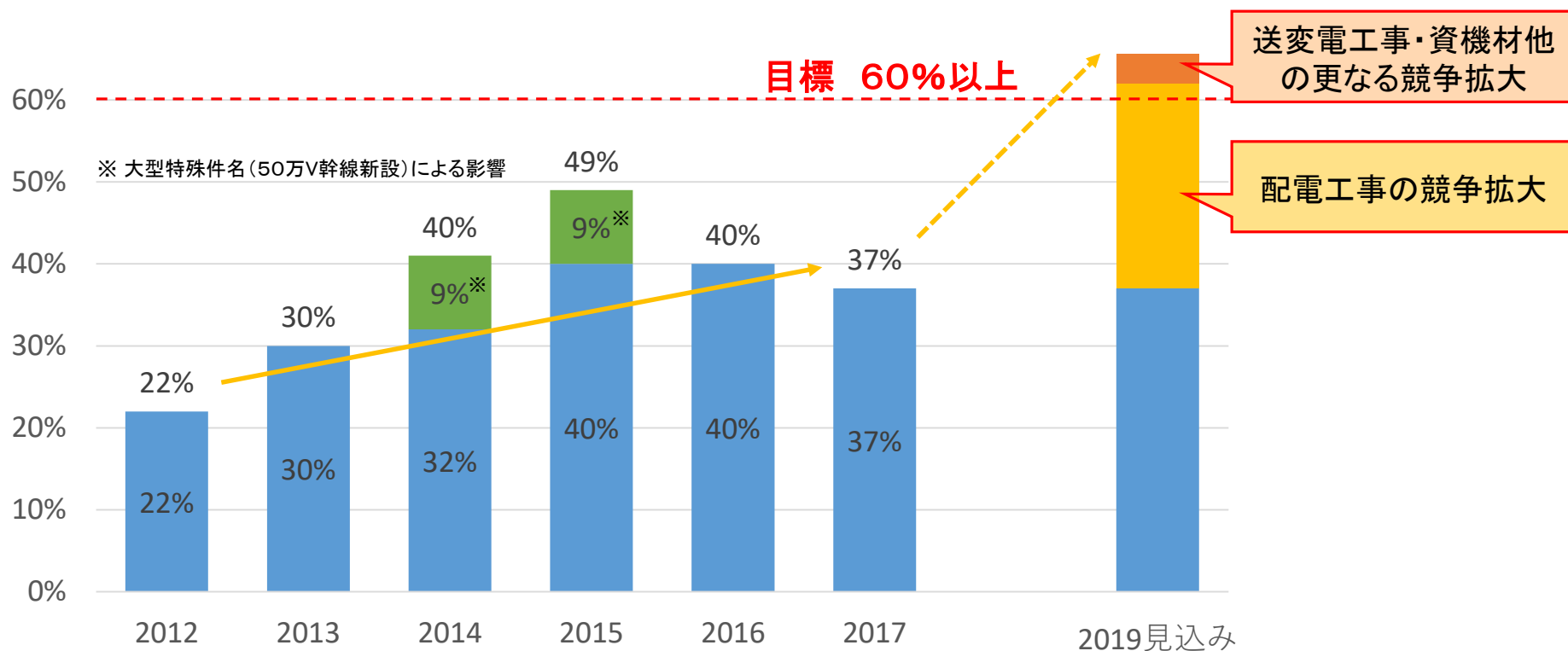


### 【導入事例】

- 自動電圧調整器の仕様見直し  
〔他社への聞き取りなどにより集めた情報を活用し仕様見直し〕
- ポリマーブッシングの導入  
〔電力会社10社にて情報共有し、仕様統一化を検討中〕
- 地中ケーブルの劣化診断技術  
〔電気協同研究会の研究成果を活用し、劣化診断技術を確立〕
- 防蟻ケーブルの仕様統一化  
〔近隣他社との情報交換や協議を行い、仕様統一化を検討中〕

- 当社は、現在、配電工事をはじめ、送変電工事・資機材他の競争拡大に向けて取り組んでおり、「競争発注比率を2019年度に60%以上」とする目標は、達成可能な見込みです。
- 今後とも引き続き、安定調達や工事力確保等にも配慮しながら、更なる競争拡大に取り組んでまいります。

送配電部門における競争発注比率の推移



- 2017年度の給料手当は、時間外が増加したことや、賞与水準を引き上げたことなどに伴い原価に比べ増加しています。
- 当社は、これまで事業所の統廃合や、保全・工事業務のIT化等を行い、経営資源を効果的に配置・活用することで効率的な事業運営を推進してまいりました。
- 今後とも、労働人口の減少も見据えながら、AI・IoT等の先進技術の活用により、引き続き業務の効率化・高度化に取り組んでまいります。

## ＜人件費・委託費等の差＞

(億円)

|                             | 原価<br>(①) | 実績<br>(②) | 差異<br>(②－①) | 主な差異理由                                                        |
|-----------------------------|-----------|-----------|-------------|---------------------------------------------------------------|
| 役員給与                        | 2         | 4         | 2           | －                                                             |
| 給料手当<br>〔給料手当振替額<br>(貸方)含む〕 | 409       | 529       | 120         | ・出向者等の原価<br>不算入による差<br>・給与水準の差<br>〔・単価差影響 ＋130<br>・人員差影響 ▲31〕 |
| 退職給与金                       | 62        | 59        | ▲4          | －                                                             |
| 厚生費                         | 85        | 107       | 22          | ・法定厚生費の差                                                      |
| 委託費                         | 369       | 392       | 23          | －                                                             |
| その他                         | 66        | 53        | ▲12         | －                                                             |
| 人件費・<br>委託費等合計              | 994       | 1,144     | 150         | －                                                             |

## ＜主な業務運営効率化の取組(送配電部門)＞

| 項目                                | 概要                                          |
|-----------------------------------|---------------------------------------------|
| 変電所の無人化<br>(2002～2005年度)          | 遠隔監視制御技術の活用により、<br>500kV変電所(4か所)を無人化        |
| 事業所の統廃合<br>(2004～2006年度)          | 配電事業所の統廃合により人員配<br>置を効率化<br>(85→54箇所 ▲31箇所) |
| 保全・工事業務のIT化<br>(2006～2007年度)      | 設備データの一元管理等による保<br>全・工事業務の省力化               |
| 保全業務の委託化<br>(2011年度)              | 電力輸送部門の保全業務を子会社<br>に委託・集中化                  |
| 電気工事申込受付の<br>インターネット化<br>(2017年度) | 電気工事店からの新增設申込の受<br>付をインターネット化し省力化           |

- 新規取引先の開拓や調達プロセスの透明性確保等を図るため、毎年、ホームページにて調達計画を公表しています。
- 公表時は、取引先が検討しやすいように調達時期や納入場所等を件名毎に掲載していますが、契約にあたっては、コスト低減と安定調達の両立を図るため、まとめ発注や共同調達を行なうなど、効率的な調達に取り組んでいます。
- また、工事計画の策定段階や資材の契約段階で最新の技術革新等の知見を取り入れています。

